

令和5年度第1回三豊市総合教育会議の開催結果概要

【日 時】 令和5年7月24日（月）15時00分～16時25分

【場 所】 三豊市危機管理センター2階 201会議室

【出席者】

(1) 構成員

職名		氏名
市長		山下 昭史
教育委員会	教育長	大原 一仁
	委員	野田 雄一郎
	委員	永田 洋子
	委員	須山 貴司
	委員	松田 真喜子

(2) 事務局

職名		氏名	
政策部	部長	石原 一也	
	地域戦略課	課長補佐	富家 知美
		副主任	宮谷 友梨
健康福祉部	部長	藤田 伸治	
	保育幼稚園課	課長	川上 良子
教育委員会事務局	部長	開口 陽子	
	教育総務課	課長	鎌田 哲代
	学校教育課	課長	内田 さなえ
	スポーツ振興課	課長	高橋 秀行
	生涯学習課	課長	立岡 睦子

【傍聴者】 なし

【会議次第】 1 開会

2 市長挨拶

3 教育長挨拶

4 協議事項

(1) 三豊市教育大綱の策定について

(2) 認定こども園の設置推進（幼保一元化の推進）について

(3) 部活動改革とスポーツ・文化芸術の振興について

(4) その他

5 閉会

【議事要旨】

発言者	内容
進行	<p>それでは、これより令和5年度第1回三豊市総合教育会議を開催いたします。 なお、本日の会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第一条の四の6により公開することとなっております。 それでは、はじめに三豊市長 山下 昭史よりご挨拶申し上げます。</p>
山下市長	<p>皆さま、お疲れ様でございます。教育委員会に引き続き、第1回三豊市総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。5月8日にコロナが5類感染症となり、社会全体が動き始めました。とはいえ、ウイルスがなくなったわけではありませんので、学校への影響はまだあると思います。その中で、子どもたちには学校生活で楽しい思い出が残るように、取り組んでいきたいと思っております。本日の議題の一つには、部活動の地域移行についての議題がございます。三豊市としては、部活動というよりも、放課後をいかに充実したものとし、生徒たちに選択肢をどれだけ用意できるかが課題だと思っております。皆さまと知恵を出し合いながら進めていきたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしく願いいたします。</p>
進行	<p>続きまして、三豊市教育委員会教育長 大原一仁様よりご挨拶をお願いします。</p>
大原教育長	<p>この場にいらっしゃる中で、初めて総合教育会議に参加するのは私だけとなります。意見交換や協議を行う場ですので、ぜひ、活発な議論をしていただければと思っております。校長・園長・所長が集まった際には、三豊市だからこそのことを増やそうという教育委員会のコンセプトを基に考えています。新しいことをする際には障害があるものですが、それをいかに乗り越えるかを考えながら取り組んでおります。意見が分かれる議題もありますが、ご討議いただければと思っております。本日はよろしく願いいたします。</p>
進行	<p>協議事項に入る前に、本日の会議の議長の選任をお願いしたいと思います。この会議の議長は、会議の内容によって決めることになっております。市長、どのようにいたしましょうか。</p>
山下市長	<p>教育長にお願いして、会議を進行していただけたらと思いますが、いかがでしょうか。</p>
大原教育長	<p>分かりました。では、私が議長を務めさせていただきます。</p>

進行	<p>それでは、今回の議長に教育長が選任されましたので、これよりの議事進行については、教育長よりお願いいたします。</p>
議長	<p>議長に選任されましたので、ここからの議事については私が進行させていただきます。それでは、会次第に沿って議事を進行してまいります。 協議事項の1番「三豊市教育大綱の策定について」の協議になりますが、事務局より説明をお願いします。</p>
教育総務課 鎌田課長	<p>資料に基づき説明（略）</p>
議長	<p>ありがとうございました。 それでは、教育委員会からの説明が終わりましたが、本議題について市長のお考えはいかがでしょう。</p>
山下市長	<p>三豊の子どもたちがいろいろな選択肢の中から選べる環境が必要だと考えています。子どもたちがいろいろな興味を持っていることに対して、知りたい・学びたいという思いをあきらめなくていい環境が必要です。それは大人の責任においてやっていくことだと思っています。三豊市は7町が合併してできた市ですので、その歴史や文化という、自分たちのルーツや背景を学ぶ環境も必要だと思っています。そういう思いを込めた教育大綱が必要だろうと思っています。</p>
議長	<p>ありがとうございました。 それでは委員の皆さまのご意見ををお願いします。</p>
野田委員	<p>現行の大綱の基本目標4番についてですが、コロナ禍があり、どのように進んだか不透明な部分はありますが、学校・家庭・地域・関係団体の連携を考えると、今はやや希薄になってきていて、どのように連携を繋いでいくかということについて大綱の中で方向性を示していく必要があるのではと感じています。それが子どもたちの健やかな育成につながるのではないかと思います。 また、基本目標5番の重点項目にある児童虐待については、全国的にもニュースで取り上げられています。その原因は何かを考えていくと、一つは基本目標4番にある「絆を強める」とつながっていると思います。社会から寸断されることによって、親御さんの心が荒むと子どもにしわ寄せがいくので、これから進めていく大綱の中に関連性を持たせて示していく必要があると思います。</p>

議長	今、野田委員から地域・家庭・関係団体と学校との連携強化を盛り込むことや、児童虐待においては地域の絆が希薄になっているのが一つの原因ではとお話があったのですが、他はいかがでしょうか。
松田委員	最近、元々地域で暮らしていない人も多く、地域との交流が持てなかったり、地域のことを知らなかったりする人もいます。新しく地域へ入ってきた方へいろいろなことを知らせることが大切だと思います。核家族が多いためかどうかは分かりませんが、子育てについて相談できる環境も必要だと思います。
議長	絆が希薄になってきたと感じます。
山下市長	家族で気軽に参加できる機会がないですね。もっと参加しやすい交流の場が居場所という意味でも必要だと思います。
永田委員	先日、山本町の社協の子育てサロンで、そうめん流しを数年ぶりに開催したところ、50人が来てくれました。幼稚園や小学校が統合され、コロナ禍もあったので、人が集まるか不安でしたが、集まってくれてすごく嬉しかったです。移住された方にも地域に溶け込んでもらうために声をかけました。市内では、児童委員さんが連携を取って、0歳児の親子には赤ちゃん訪問をするなど子育て支援を行っています。私は0歳から教育だと思っています。今のお母さん方は、ネットですぐ調べられるので、人にあまり聞くことがなくなりましたが、人とかかわりの中で教わることもあります。核家族が増えている中で、お母さんが孤立して、自分でなんとか解決しようとしています。そういう方々を地域・学校などが連携して支えようとする努力を感じます。
山下市長	子どもたちはそうめん流しのイベントを待ち望んでいたようでしたか？
永田委員	そうめん流しの他に、水遊びやシャボン玉も用意して、低学年と幼稚園・保育所の子どもたちを対象に行いました。こんなに集まってくれるとは思っていませんでしたので、良かったなあと思いました。
山下市長	コロナ禍で復活するものがある中で、やめてしまうものもありますよね。
野田委員	別の角度から見たら、絆を深めていくために、新しいものを生み出したり、新しいアイデアで切り込んでいったりするタイミングだと思います。ずっと続けてきたからやるのではなく、この時期だからこそ、新しい見方で人と人

<p>山下市長</p>	<p>を結び付ける発想を大事にしなければならないと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>そういう意味では、学校が中心になる可能性がありますね。</p>
<p>山下市長</p>	<p>学校現場でいるときに、地域の方からよく、学校に協力できる取り組みがあるよといろいろと提案いただいていた。ただ、学校は取り入れていくのにやや負担感があるので、今から精選していったらいいのかなと思っています。というのも、不登校の問題では、学校に行けなくなったらすべてがダメと捉えられる傾向があり、そこをもっと緩和できればと思います。</p>
<p>野田委員</p>	<p>学校に行かない子はダメな子という、レッテルがある気がします。大人は会社が合わなければ、転職という選択肢があるのに、子どもだけ選択肢がないのは変な話ですよ。学校がすべてという考え方はもう脱却すべきかと思います。そういう意味で、学校がもっと地域に開かれれば、地域の方が来やすいですし、地域の方と何かやるのも一つの考え方だと思います。</p>
<p>山下市長</p>	<p>先日、教育センター長の小玉さんと話す機会があり、私の発想との違いを感じました。例えば、タブレットに関しては、子どもが使いたいときに使う道具であって、先生が使わせるものではないということでした。それが本来の探究心を育てるということです。これは、学校現場で十分認識できていないのではないかと思います。</p>
<p>山下市長</p>	<p>夜間中学で、授業中にずっとスマホを見ている生徒さんがいて、教えている先生はとても気がかりだったそうですが、後ろから覗いてみたら、授業の内容を調べていたそうなんです。それを見た先生は、自分の考え方を変えないといけなそう思ったそうです。ぼくらは辞書を使っていましたが、彼ら Z 世代はスマホの中にすべてが入っています。授業中は前を向いて黒板を見ていないといけなという、学校の概念もこれから変わっていくのかもしれない。</p>
<p>野田委員</p>	<p>何かしらのルールはいるとは思いますが、先ほどの例のように、タブレットを先生が使わせるという発想をなくしていき、子どもが授業中に自分で調べることに対して信頼できれば、子どもと先生との関係がもっと深まるのではないかと思います。</p>
<p>山下市長</p>	<p>たくさん情報量がありますが、彼らはちゃんと選別しています。情報を瞬時に判断していく力が優れていると感じます。これを前提に、教育を構築していかないといけな。ぼくらが小学生のときとは明らかな違いを感じま</p>

	<p>す。彼らにとって、自由というのはとても重要な問題。目の前にタブレットがあるのになぜ調べたらいけないのか。自由度が必要だと思います。</p>
野田委員	<p>それに関連して、ある学校の先生と話をしていたときに、先生がタブレットをどれくらい使用しているかについての調査で、教育委員会から使用量や使い方のノルマが与えられていると聞きました。これでは、先生自体がやらされている。その発想を教育委員会がしている間は先生もその発想のままです。もっと柔軟に考えるように各学校に働きかけることが大事だと思います。</p>
永田委員	<p>やりたい学びを学校でもどんどん進めていただきたいです。いろいろな工夫もされていますが、子どもたちにはまだやらされている感があるような気がします。私の経験ですが、就学前の子に先生が望む遊びをさせていると、指示待ち人間を育てているのではないかという考えがありました。自発的な子どもを育てるための根っこの部分で、やりたい遊びができる環境があれば、小学校にもつながるのではと思います。</p>
山下市長	<p>自発的な教育をするには先生が自発的でないとはいけませんね。これは、指導要領はそれでいいのかという話にもなりますね。</p>
議長	<p>そういうことが感じ取れるような大綱にする必要があると感じます。学校現場で言うと、三豊・観音寺は教育の文化が他とは異なり、独自性があると言われています。例えば、勤務時間後に電話を自動音声に切り替えないのは三観だけで、切り替えようという話を出したら、保護者と連絡が取りにくいという意見があり、学校と家庭との密な連携があると感じました。丁寧に細かく対応することは大事ですが、足かせにもなっており、今後考えていかないとはいけません。</p> <p>他に、ご意見はありませんか。</p>
須山委員	<p>教育委員を1年間させてもらって、不登校が多いことが気になっています。小学校・幼稚園・保育所は、時代とともに変化してきていて、子どもたちに、義務と自分のやりたいことのバランスを取らせながら、先生は大変な環境の中で教育されていると痛感しました。不登校が増えている原因が環境にあるのであれば、なんとかしてあげたいと思います。</p>
山下市長	<p>一時保護は増えているのですか。</p>
健康福祉部 藤田部長	<p>児童相談件数は増えてきています。2年前から、通報があれば保護する動き</p>

議長	<p>になりました。</p> <p>基本目標5番の重点項目にある「一人ひとりの多様性と人権が尊重される地域・まちづくり」がしっかりと表に出てくる大綱になればいいと思います。それでは、協議事項の2番「認定こども園の設置推進について」の協議になりますが、事務局より説明をお願いします。</p>
保育幼稚園課 川上課長	資料に基づき説明（略）
議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、説明が終わりましたが、本議題について市長のお考えはいかがでしょうか。</p>
山下市長	<p>説明の中で、出生数が300人を切ったとありました。この結果は重く受け止めなければいけないですが、コロナの影響で出産を控えていた可能性もあります。この傾向が続くかどうか、来年の様子を見ていきたいと思っています。</p> <p>また、保護者が仕事をし、ライフスタイルが変わってきているため、0歳児から預けたいという方が増えた結果、幼稚園の定員割れが続いているのだらうと思っています。とはいえ、幼稚園が良いと言う方もいらっしゃる、そこが悩ましいところです。全体的には、こども園化を進めていくことが、いろいろなニーズを受け止められるのではと思っていますので、それについて、ご意見をいただきたいと思っています。</p>
議長	それでは、委員の皆さまからご意見をお願いします。
松田委員	<p>私が子育てしていた時は保育所に3歳まで行って、4歳から幼稚園へ行く方が、小学校との交流もあって、良いのかなと思っていたのですが、南部保育所に預けている方によると、保育所でいろいろな経験をさせてくれるので、そのまま保育所に預けるのがいいと言っていました。今は考え方や生活スタイルが変わってきていると思います。</p>
山下市長	今も、幼稚園の方が小学校に上がるときに良さがあるのですか。
松田委員	幼稚園では、小学校1年生と一緒に活動することがあります。
永田委員	隣接している幼稚園が多かったので、そういう傾向がありました。今は、こども園や保育所でも小学校との連携をしています。以前は、幼稚園イコール

	<p>教育、保育所イコール養護という認識がありましたが、指針の整合性が図られて3歳以上は同じような教育・保育をするようになりました。三豊市の場合は、15年前から保育所と幼稚園が一緒に乳幼児研修を受けて、質の高い保育に取り組んでいます。それを小学校へのスムーズな移行につなげていければいいですね。</p>
議長	<p>この3か月で、幼稚園・保育所・こども園について勉強しているのですが、率直に言えば、なぜ、こんなに複雑なのだろうと思ってしまいます。</p>
山下市長	<p>幼稚園は教育委員会事務局で、こども園は健康福祉部というのをまとめていければと思います。幼稚園は保育所と違う教育をしているわけではないですよ。</p>
野田委員	<p>その違いを保護者がどれだけ理解されているのでしょうか。分かっていない方も多いと思います。資料を見ると、豊中幼稚園以外はさみしい感じがします。働きたいから保育所へ預けるのか、保育所も幼稚園と同じように見られるから保育所なのか。それとも、預けたいところに預けているだけなのか、その辺りが分かりません。</p>
健康福祉部 藤田部長	<p>豊中幼稚園は旧町時代に統合した経緯があります。私立めみか保育園ができるまでは、3歳から豊中幼稚園に行くしか選択肢がありませんでした。働いている保護者の7割くらいの方が0歳児から保育所へ預けます。そこで、保護者や子ども同士の関係ができるので、そのまま保育所に通い続ける流れが近年増えてきています。3歳から幼稚園に通うとなると、例えば、高瀬なら5つの幼稚園に分散されることとなります。せっかくできた交友関係を崩したくない、みんなで一緒に小学校に上がらせたいという思いがあって、そこに、保育の時間や給食のことがプラスされて、幼稚園で預かり保育があるといっても、変わらない状況があります。</p>
山下市長	<p>ライフスタイルが変わってきていて、選択の仕方も変わったことがあるかもしれません。</p>
永田委員	<p>私は保育所と幼稚園の両方に勤めましたが、子どもに対する意識の違いを感じました。幼稚園では、家庭での教育力を気にしていましたし、保護者の意識も違うように感じました。ただ、保育所に長く勤めているうちに私の意識が変わって、さまざまな勤務時間で働く保護者にとっては、保育所でしっかり預かるから、家庭でたっぷり愛情を注げるのだというふうに、考えるようになりました。また、今は違うと思いますが、保育所から小学校に入ると、</p>

	<p>お母さんが仲間に入りづらいから幼稚園に行くという声が地域によってありました。</p>
<p>山下市長</p>	<p>複雑にいろいろな要素が絡み合っているのですね。システムの複雑さが原因だと思います。</p>
<p>永田委員</p>	<p>曾保幼稚園の在り方に少し疑問を感じています。少人数の保育は本当に大変で、逆に 20 人くらいのクラスの方が子どもたち同士で自然に育ってっていました。少人数だと、先生がずっと見ていることになり、見張られている感じがあります。見え過ぎるんですね。0～2 歳までは保育士が見ている必要がありますが、3 歳からは子どもたち同士で育つ部分が大きいと思います。</p>
<p>山下市長</p>	<p>統合に反対される方には、少人数クラスがいいという意見があって、どちらも一長一短なのだと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございました。 それでは次に、協議事項の 3 番「部活動改革とスポーツ・文化芸術の振興について」の協議になりますが、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>学校教育課 内田課長</p>	<p>資料に基づき説明（略）</p>
<p>スポーツ推進課 高橋課長</p>	<p>資料に基づき説明（略）</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございました。 それでは、説明が終わりましたが、本議題について市長のお考えはいかがでしょうか。</p>
<p>山下市長</p>	<p>野球部が 9 人揃わないから廃部というのは、子どもたちが好きなことをできるか、できないかはすべて学校の中でしか叶わないという典型だと思います。もし、野球をしたい子が 8 人いた場合は、どうしたらいい？となります。これは大人の責任において、やりたいことができる環境を作っていかなければ、野球がうまくできるようになりたいと思っている子をあきらめさせることとなります。そういう理由から、部活動の地域移行はやらないといけません。人数が揃わないと、学校が廃部と決める。1 人でもやりたい子は、数に入らないのかということです。だから、地域移行をして、放課後を変えていきたいと思っています。</p>

議長	それでは、委員の皆さま方のご意見をお願いいたします。
野田委員	各中学校の部活動の加入率を見ると、90%前後となっています。残りの約10%は校外部活で、硬式野球や少林寺、柔道などを自ら選択しています。校外で活動したい子はそれでいいですし、学校の部活で活躍したい子は応援できる環境を作り、できるだけ廃部という言葉聞きたくないと思います。
議長	教育委員会としては、できることからやっていかないと、教員のモチベーションも保てないのではないかと危惧しています。目に見える形で変化を積み重ねて、できるだけ早く進めることが大事だと思っています。
山下市長	早くやらなければいけない理由は、子どもたちにとっては3年間しかないからです。中学生は3年生で部活を引退するので、実質2年間となります。行政がもたついているうちに、やりたいことができないまま卒業してしまうこととなります。
議長	ありがとうございました。 それでは、議題の4番「その他」となりますが、本日、協議した内容以外で、何か協議や調整を行いたい事項はございますか。
各委員	協議事項なし
議長	それでは、すべての議題が終了しましたので、ここで議長を降ろさせていただきます。長時間に渡りご協議いただきましてありがとうございました。これからの進行は事務局よりお願いします。
進行	ありがとうございました。 それでは、閉会に移らせていただきます。閉会に際して市長の山下より一言ご挨拶を申し上げます。
山下市長	今日は率直なご意見いただけたと思います。0歳から中学・高校までの一連の話ができました。こうした会を継続して、今の子どもたちに直接影響することは行動にすぐに移していきたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。
進行	ありがとうございました。 以上をもちまして、令和5年度第1回三豊市総合教育会議を終了させていただきます。長時間に渡りご協議いただきありがとうございました。

三豊市総合教育会議規程第6条第3項の規定により、ここに署名する。

令和5年 8月31日

三豊市長 山下昭史

三豊市教育長 大原一仁